

松江キャンパス ニュース

The University of
Shimane Junior College

2013
vol. 6

地域にあつて
輝く大学を目指して

学科関連行事

公開講座

食育講座 他

TOPICS

特集

全国図書館大会島根大会



マスコットキャラクター
オロリン



第98回全国図書館大会（主催：社団法人日本図書館協会 ほか）が去る10月25日・26日の2日間にわたって、島根県民会館 ほか を会場に開催されました。島根県では37年ぶりの開催で、大会全体では延べ1,400人の参加がありました。本学（松江キャンパス）では、大会2日目に日本図書館協会図書館教育部会との共催で、第10分科会（図書館学教育）が開催されました。

午前の部では、分科会のテーマである「新しい養成カリキュラムの開始と地方の司書課程・司書講習」のもと、本学からは総合文化学科の教員と学生図書委員会の学生からの報告がありました。午後の部では、シンポジウム「地方の図書館専門教育の未来を考える」が開催され、午前の部の議論をふまえた上で、図書館専門教育の将来について活発な議論が交わされました。本学の司書課程科目受講者130人も参加し、メモをとりながら真剣な眼差しで聞いていました。

また、これらのプログラムに合わせて「おはなしレストラン・ライブラリー」では、分科会参加者による見学会が行われました。専門職員からの説明の後には、ライブラリーの地域に根ざした活動について参加者から多くの質問がされていました。



第10分科会(松江キャンパス)

松江キャンパス司書課程の取り組み

総合文化学科 講師 石井大輔

「島根県立大学短期大学部の司書養成カリキュラムについて：専門科目『図書館情報学』における新課程への移行と課題」というタイトルで報告を行いました。今年度より、改正図書館法施行規則が本格実施され、本学においても新しいカリキュラムのもとで司書課程教育が行われています。そうした中での本学の取り組みを報告するとともに、他大学における最新の実践例や諸課題についての意見交換ができたことは大きな成果であったと思います。参加した学生諸君にとっても自分たちに身近な話題で興味をもってもらえたと同時に、司書という専門職に就くことを目指す上での課題についても考えてもらうきっかけになったと思います。本学は、県内唯一の司書課程を有する大学として、今後も充実した養成カリキュラムの実施を考えていこうと思います。



「読み聞かせの実践」を全国図書館大会で報告

総合文化学科 教授 マユー あき

「おはなしレストラン、はじまるよ！：授業「読み聞かせの実践」とその成果」と題して、事例発表を行いました。松江キャンパスでは、学生の総合的な人間力の育成を目標に掲げ、地域の子どもたちに絵本の読み聞かせを行っています。この取組を「おはなしレストラン」と呼んでいますが、その基盤となっているのが3学科共通の基礎科目「読み聞かせの実践」です。

発表では、おはなしレストランのこれまでの歩みと授業概要を簡単に紹介したのち、絵本の読み聞かせを授業として成り立たせるために行っている3つの工夫（おはなしレストラン10ヶ条、3種のノート、多面的評価）と、学生たちがこの授業を通してどんな学びや気づきを得ているのかについて報告しました。また、かつての受講者で、現在は県内の図書館で司書として働く卒業生4名が、授業で養われた絵本を選ぶ力、人前で話す度胸、コミュニケーション力が今の仕事に活かされているという声を寄せてくれたことを紹介し、司書養成を側面から支援する科目としても機能している点に触れました。



質疑応答の時間後も、発表を聴いてくださった方が個人的に声を掛けてくださるなど、松江キャンパスの取組に高い関心を持ってくださいました。

大会島根大会開催!!

「学生図書委員会」の活動を図書館大会で報告 総合文化学科2年 周藤 彩・1年 山中多希子

学生図書委員として「学生図書委員の活動から見えてくる図書館—他とのつながりを求めて」というテーマで、発表をさせていただきました。

学生図書委員は、図書館と学生の架け橋になるために発足した団体です。図書館大会では、おもに、これまで私たちが行ってきた活動や、今後行いたいと思っている活動、今後の展望、「司書」という仕事への考えの変化、などについて発表しました。

大勢の人の前での発表ということ、また、ほとんど前例のない学生の発表ということで緊張もしましたが、学生図書委員の活動を全国に知っていただく、とてもいい機会となりました。発表終了後に多くの方から質問や、励ましの言葉をいただいたことも、大きな自信となりました。

テーマの「つながり」という言葉どおり、学生図書委員の活動を通し、たくさんの人に出会えたことに感謝しています。今後も、この経験を活かし、様々なことに挑戦していきたいと思っています。



参加者の感想

図書館大会に参加して

総合文化学科2年 安達静香

今回の図書館大会では、普段の授業ではなかなか聞くことの出来ない話をたくさん聞くことが出来ました。特に、司書課程の授業については、各学校で異なる形態をとっていて、普段受けている授業が、他の学校では珍しい形態であることを知って驚いたり、他の学校の授業の様子について知ることが出来たり、様々な発見がありました。また、各学校とも授業の時間帯や、内容の改訂による授業内容の変化、司書課程を教える教員の少なさなど、様々な問題を抱えていることが分かりました。こうした問題を解決するためにも、まず司書という仕事の重要性をもっと一般に認識してもらうことが大切なのではないかと感じました。図書館大会に参加したことは、司書を目指していく上で、また、司書になる上で、これからの参考になる貴重な体験になったと思います。

第2分科会(くにびきメッセ)



本学で第10分科会が行われている頃、別会場のくにびきメッセでは、「学習・教員のハブを目指して—教育と連携した大学・短大・高専図書館のサービスをデザインする—」をテーマに第2分科会が取り行われました。

これまで図書館は、学習のための施設として捉えられてはいるものの図書館を活用して教育の改善を図るという発想はされて来ませんでした。

そこで、高等教育機関が進める教育改革の中で図書館は、どこまで参加、あるいは関わって行けるのかをテーマに「図書館」と「教員・学生」が連携して学習・教育支援を行っている大学・短大・高専図書館の事例報告等から図書館の今後の可能性を探りました。

本学からも「おはなしレストラン・ライブラリーの取組—読み聞かせの活動拠点として—」というタイトルで岩田英作教授からの事例報告がありました。図書館と教育が脆弱だと指摘されている昨今において「おはなしレストラン・ライブラリー」は、教育のために作られた図書館であり、教育とは切り離すことができない、また地域とも自然につながりができているというお話から図書館の規模は、関係なく要素が揃えばどこの図書館でも学習・教育支援が可能であるということをお教えられました。そして、この取組については、他大学からもかなり関心を持っていただけたようでした。

(松江キャンパス図書館 司書 北井由香)



健康栄養学科食育の取り組み —コープフェスタに参加して—

健康栄養学科2年 三澤のぞみ

私たち健康栄養学科では毎年食育に関する様々なボランティアに参加しています。その一つとして今年度は、生協しまねさんが主催するコープフェスティバルに参加しました。子どもたちを対象に、食べ物ゲームで遊ぼう!学ぼう!～食のオリンピック～と題し、「お買い物旬あてゲーム」、「3文字食べ物パズル」を行いました。子どもたちに野菜について知ってもらい楽しんでもらうために、手作りで媒体などを作りました。当日はたくさん子どもたち、また親子で参加し、楽しんでくれました。オリンピックにちなんで作成した野菜メダルを笑顔で持って帰ってくれている姿を見てとてもうれしかったです。また、1年生と2年生と一緒に企画や準備をすることにより交流ができたこともよかったです。このようなボランティアは、普段“食”について学んでいる私たちにとってとてもよい経験になりました。



第53回中・四国保育学生研究大会に参加して

保育学科1年 青木貴宏

平成24年11月24日(土)に第53回中・四国保育学生研究大会が島根県民会館で開催され、本学保育学科は協力校として、中国、四国地方の保育士養成校の学生たちによる研究発表を支えました。

当日は玄関までの誘導や発表会場の設定や昼食の弁当配りなどの支援を1年生全員で行いました。朝は雨が降る中での誘導で大変ではありましたが、どの学校の方々とも気持ちのよい挨拶を返してください、さすがは保育者を目指す人たちだなと感心すると同時に自分ももっと元気よく挨拶をしようという気分になりました。

休憩中に他校の発表を少しだけ見ることができましたが、いずれも素晴らしい発表内容で参考になるものが多く、保育への学びの意欲がかき立てられるいい経験となりました。

今回はスタッフと言う形で保育研究大会に参加することになりましたが、機会があればぜひ発表したり一緒に踊ったりしてみたいと思える、そんなとても楽しく、素晴らしい研究大会でした。



公開講座

「食育講座：和食の基本調理実習」

健康栄養学科 教授 小柏道子
助教 坂根千津恵
助教 水 珠子

この講座は、食育の一環として、時間にゆとりができた男性の食の自立を支援することが目的でした。食の自立とは、自分の食べる物を自分で適切に選ぶことができる、すなわち「食の自己管理能力」を身につけるということです。この自己管理能力を養うためには、やはり「自分で食事を作れること」が一番と考え、基本的な和食の調理法を身につけてもらうことで、「自分で料理をすれば、身近な材料で、比較的簡単にでき、何よりもおいしい!」と感じてもらい、やる気を起こしてもらいたいというわけです。

結果は、年齢54歳から84歳までの14名の応募があり、12名の方が入れ替わり立ち替わりの出席で、第1回：9名、第2回：11名、第3回：10名（うち7名は皆勤）でした。アンケート調査によると、受講動機（9人）は、調理の基本を習いたかった（5人）、調理をしてみたかった（4人）ということです。受講後の変化を尋ねると（9人）、料理を始めた（3人）、料理をしようという意欲が増した（4人）、基本的な料理ならできるように思った（1人）と答えており、9人中の4人が、「今後も受講したい」、「来年度の開講を希望する」と記載していたので、次回に続編を開催することにしました。



第1回：おにぎり、だし巻卵、茄子の揚げ煮、みそ汁



第2回：ご飯、筑前煮、胡瓜と白子干しの酢の物、メ卵のすまし汁



第3回：ご飯、はまち梅しゃぶ（ポン酢）、南瓜のそぼろあんかけ、昆布の佃煮

「初めての陶芸体験」～手びねりで、焼き物を作ってみよう～

保育学科 准教授 福井一尊

この講座では陶芸初心者を対象として、全4回シリーズで手びねりによる焼き物体験を行いました。前半2回では、陶芸用の粘土を練ることから練習を重ね、粘土造形によって湯呑、茶碗、小鉢、箸置きなどの使える形を生み出しました。粘土を直接手で扱いながら、粘土素材の魅力に浸る時間を楽しみました。後半では、電気窯で素焼きした作品に絵付けや、釉薬かけを行い、本焼きをして仕上げました。陶芸には作る愉楽とともに、観たり使ったりすることも醍醐味であるため、最後には受講者全員で作品を使って季節を味わう体験も取り入れました。焼き物の基本的な工程を体験的に学びながら、素材の魅力や火の力を感じ、人が本来持っている作り出す喜び、工夫する楽しさを再認識できる貴重な学びの場となりました。



「山陰民俗学会連携講座：島根県の民話とわらべ歌を中心に」

非常勤講師 酒井董美

タイトルは「島根県の民話とわらべ歌を中心に」であり、平素は非常勤講師として本学の総合文化学科の学生用に出している同名の講義の中から、県下三地区（出雲、石見、隠岐）の代表的な民話を選んで組み立てたものです。また、『古事記』が出来て1300年に当たるのを踏まえて、古事記神話と伝承民話の関連を加えたのも、今年の内容の特徴でした。

わらべ歌や労作民謡なども、三地区の古老から収録させていただいた音源を使ったり、それらを幼稚園児や合唱団が歌い直した音源を披露したりしながら、出来る限り具体的な資料を聞いていただけるように配慮して、かつての民間信仰を確認しつつ進めました。

多くの受講者からは、「子供時代に聞いたり歌っていた」とか、「私たちはこういう歌詞でした」などの発言をいただき、講義者としてもお互い楽しみながら過ごすことが出来たのではないかと喜んでます。



新任教職員挨拶



保育学科
講師

藤原映久

藤原映久(ふじはら てるひさ)と申します。平成24年4月に保育学科に着任しました。社会福祉、児童家庭福祉に関連する科目を担当しています。よろしくお願いいたします。

今、児童家庭福祉の現場では、被児童虐待など要保護児童への支援が大きな課題です。要保護児童の最終的な支援は社会的養護(児童福祉施設や里親)です。現在、日本では約4万5千人の子どもが社会的養護を受け、うち約9割は親が存在します。親がいながら何らかの

理由により、親元で育つことのできない子ども達も大勢いるのです。家庭で生活できない原因は様々で、児童虐待ばかりではありません。一人親家庭、経済的問題などの問題が複合的に絡まり、子どもが家庭で育つことを困難にしています。

そして、児相相談所、児童福祉施設など社会的養護を支える現場は、日々、奮闘しています。

私は、そんな現場の人たちと連携を組み、要保護児童や社会的養護を利用する子ども達を支援できればと考えています。



保育学科
講師

矢島毅昌

平成24年4月より保育学科に着任いたしました矢島毅昌と申します。教育社会学のアプローチによる児童文化および保育内容の研究を専門としており、本学では、教育と保育の原理・内容・実習に関する科目等を担当しております。よろしくお願いいたします。

教育社会学とは、人々が教育に関する社会の営みをつくりあげていく方法を問う学問です。私は主に、子ども向けのメディアに潜むステレオタイプを読み解くことや、人・物・環境がかかわりながら保育の場で行為や言葉が意味付けられていく様子を明らかにすることを、現在の研究テーマとしております。

実家は東京都の多摩地域ですが、生まれは母方の実家がある富山県の漁師町で、また過去に山形県内の大学に勤めていました。松江は未知の土地ですが、住み慣れた街のような心地よさと、尽きることのない新鮮な魅力を感じます。人と社会に対する好奇心を大切にしながら、みなさんと一緒に勉強していきたいと思っております。



総合文化学科
講師

村上桃子

総合文化学科に平成24年4月、古典文学教室の講師として着任した村上です。

生まれは広島で、こちらに来るまでは京都に住んでいました。神話を研究しており、神話研究者にとって憧れの島根に来ることができたことをとても嬉しく思っています。今年は斐伊川や美保関、須佐など、神話ゆかりの地を一つずつ探検して回る新鮮な日々でした。中でも最も心をうたれたのは、ゼミの学生さんに教えてもらった金屋子神社とその資料館であり、白鷺が飛来してた

たら製鉄をもたらしたという伝承を知ったとき、この地域にとってたたらがいかに大切なものであるかを理解しました。これまで『出雲国風土記』を机上で理解していただけであったのが、そこに生きていた人々の生活の切実さを知りました。見るべきもの、知るべきことがここにはたくさんあると思います。

多くの大学の先生方、学生さんに支えられて初年度を乗り切ることができました。私の目標は、学生さんたちに幸せだと思ってもらえるような場所をつくることです。そのために、精一杯頑張りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。



総合文化学科
講師

渡部 周子

平成24年4月より、島根県立大学短期大学部総合文化学科日本文化研究室に着任しました渡部周子と申します。幼い頃に松江に住んでいましたので、ご縁を感じております。

わたしは、これまで少女文化について、研究してきました。総合文化学科でも、近現代の少女文化について、講義しています。卒業プロジェクトでも、少女小説や少女マンガ等を研究している学生がいます。現代の少女文化について、学生から教えられることもたくさんあります。

大学の勉強の楽しさの一つは、高等学校まででは、勉強の範囲に含まれるとは思っていなかったことを、研究の対象とできることではないでしょうか。

島根県立大学短期大学部では、諸先生方が素晴らしい授業をなさっています。もちろん、それにはまだ私は及ばないと思いますが、学生の皆様が勉強の楽しさを発見する一助となること

ができるように、未熟ながら精進したいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



健康栄養学科
助教

水 珠子

この度健康栄養学科に着任しました水と申します。出身は出雲市です。こちらには同窓の方もおられ心強くまた懐かしい気持ちになりました。職務にあたりましては報告・連絡・相談をきちんと行い職場づくりの一員となれますよう、皆様と共に励みたいと思います。どうかよろしくお願いいたします。

授業では栄養士養成課程における栄養の指導にかかわる科目などの授業資料準備、出席や身だしなみの点検、教室の整備、器具・機材の準備、板書、レポートの確認などを行い授業づくりに協力したいと思います。併せて自然豊かな食文化を大切に、食の大切さを一緒に学び、地域の食文化・特性を取り入れるようチャレンジ精神を持って取り組み、ふるさと島根の明日のために汗を流したいと思います。

学生の皆様、これから様々な出会いや別れを経験されることと思います。中には苦しいことや厳しい地との出会いもありますが、元気で明るく過ごして下さい。応援しています。

新任事務室職員紹介

平成24年4月の人事異動により事務室に3名の職員が配置されました。

出雲キャンパスから自分をイケメン、イクメンと誤解している管理課長の上代(ジョウダイ)(写真:前列)と東部県民センターから普段は物静かですが、実はK-POP好きの管理課の山根(ヤマネ)企画員(写真:後列左)と浜田キャンパスから内閣府の日韓親善交流団の副団長の経験もある教務学生課の雪吹(ユブキ)主任主事(写真:後列右)の3名です。

「明るく、楽しくなければ仕事は出来ない!」をモットーに、学生の皆さんがより楽しく充実したキャンパスライフを過ごせるようにがんばります。

教員の皆さんにも、風通しの良い大学づくりを目指して行きたいと思いますので、ご協力お願いします。

事務室は、学生の皆さんが、入学から卒業・就職まで大学生活を送るうえで、必要な事務全般を担っています、困ったことがあったら気軽に相談してください。



〈管理課長 上代勇夫〉



CAMPUS LIFE

海外語学研修

渡辺亜衣美 (総合文化学科英語文化系1年)

私たちは夏休みを利用して、ワシントン州の小さな町エレンズバーグにあるセントラル・ワシントン大学で2週間の研修を行いました。大学滞在中は午前中にLanguageとCultureの授業を、午後からは様々なアクティビティをしました。特に印象に残ったアクティビティはヤキマ川下りです。川下り自体もなかなかできない経験ですが、それと同時にアメリカ乾燥地帯の壮大な風景や強い日差し、車や貨物列車の運転手が川下りをしている私たちに挨拶代わりに鳴らしてくれるクラクションや警笛など、五感で感じる部分の多い経験となりました。またマリナーズ観戦では、歴史的なパーフェクトゲームを見ることができ、感動しました。日本との貿易が盛んな牧草の輸出会社訪問なども含め、数え切れないほど新しい体験をしました。

私は、初めは、英語を話すことにも間違えることにも緊張していました。しかし最終日には現地の人と堂々と英語で会話をし、お土産を買ったり、ご飯を食べたり、思う存分にアメリカの大都市シアトルを満喫しました。

この研修では、日本でもアメリカでも、たくさんの方にお世話になりました。この場を借りて感謝をしたいと思います。ありがとうございました。



サークル・クラブ紹介

写真部

部長 (総合文化学科2年) 柴田由香

わたしたち写真部は現在31名の部員と共に活動しています! 活動日は決まっておらず、自分の好きなときに写真を撮ったりしています。モノクロの一眼レフを無料で貸し出しているの、今では珍しいモノクロフィルムを使用し、暗室にはいり現像液につけての現像も行うことができます! 定期的に部会を開き、他大学さんとの企画も行っています(松江散策など)。もちろん初心者さん大歓迎です!

ぜひ遊びにきてください。



バレー部

主将 (保育学科1年) 藤江利央菜

私たち県短バレー部は、“やる時はやる、遊ぶ時は遊ぶ”をモットーに、週3回楽しく活動しています。監督の岸本先生は、とても熱心に指導してくださいます。

中国大学バレーボール連盟に加盟し、春季と秋季はリーグ戦、5月には中四国インカレがあり県外遠征をします。現在は、Ⅱ部リーグに所属。最上位のⅠ部リーグを目指して練習を頑張っています。(2013.1.27 島根県6人制バレーボール総合選手権大会優勝)



学園祭

